

# つけ方ビックリ！ 縄文時代の耳飾り

前橋市立城南小学校 4年1組

田村 環奈

## 1. 調べるきっかけ

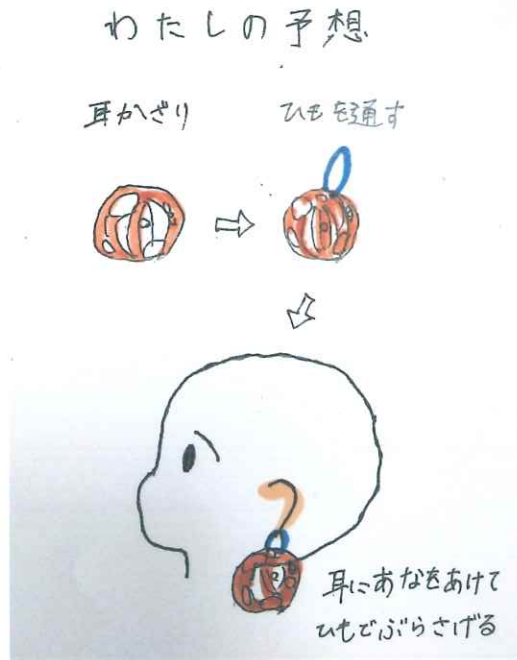
家族で「赤堀歴史民俗資料館」に行ったときに、大昔の展示品の中に「耳飾り」を見つけました。耳飾りはイヤリングやピアスのようなものなのか？すごく大きいけれど耳に付けたら重そう！と興味を持って調べてみることにしました。

## 2. 調べたいことと予想

調べたいことを次のことにしました。

- ① どのくらい大昔に作られたのか？
- ② 何のきっかけで作られていたのか？
- ③ 耳飾りの種類・色・大きさ・重さは？
- ④ どうやってつけるのか？
- ⑤ 作り方は？

④の「どうやってつけるのか？」のわたしの予想はこのような方法です。



大きな耳飾りにあなをあけてひもを通し、耳にピアスのようにあなをあけて、ひもでぶら下げの方法だと予想しました。

### 3. 調べる方法

- ① 最初に耳飾りを見た「赤堀歴史民俗資料館」に、7月11日、7月22日の2回行って、展示を見たり、先生にお話を聞いたり、写真をとらせていただきました。
  - ② 「赤堀歴史民俗資料館」の先生に、「耳飾りを調べたいならいってみたい」と教えていただいた「榛東村耳飾り館」に7月17日、8月11日、8月20日の3回行って展示を見たり、お話を聞いたり、実物の大きさや重さをはからせてもらう体験をしました。
- ※写真をとっても良いところでは、タブレットでとらせてもらいました。

### 4. 調べてわかったこと

- ① どのくらい大昔に作られたのか？（写真は赤堀歴史民俗資料館の展示）

石製のもの	約 6000 年前 (縄文時代前期)	
土製の臼状のもの	約 5000 年前 (縄文時代中期)	
大きくて飾りがほつてある土製のもの	約 3000 年前 (縄文時代後期～晩期)	
金属製・銅製	約 1500 年前 (古墳時代)	

このなかで、今回の研究では最初に気になっていた縄文時代の飾りについて調べてみようと思いました。

## ②何のきっかけで作られていたのか？

身を美しく飾るという意味よりは、おまじないのような意味合いをもつ場合が多かったと考えられているそうです。また耳飾りをつけた人とつけていない人がいるということは、身分や役割などを表す意味を持っていたと推測されるそうです。

## ③耳飾りの種類・色・大きさ・重さは？

### ☆種類

土製耳飾りの種類は「臼状」という円柱のような形のもの、「環状」という輪になっているもの、色々な模様がついたものなど、たくさんの種類があります。



↑耳飾り館の入場チケット。色んな種類の耳飾りが紹介されています

### ☆色

赤色や黒色で色を付けてあるものも一部あります。



←遺跡から見つかったものに、もようのみぞに赤い色が残っているものがあります  
(下新井遺跡で見つかったもの)

☆大きさ

茅野（かやの）遺跡から見つかった耳飾りは、1cm より小さいもの～9cm くらいのものがみつかっています。

☆重さ

実際に下新井（しもあらい）遺跡からみつかった耳飾りを、耳飾り館で測らせてもらいました。

茅野遺跡から見つかったものは重要文化財に指定されていてさわれないため、だいたい同じ時代の下新井遺跡のものをさわらせてもらいました。

	直径(cm) ※一番長いところ	厚さ(cm)	重さ(g)	様子
A 	7.03	2.50	165.63	測ったなかで一番重いもの。円柱状でくぼみなし
B 	1.71	1.50	1.87	測ったなかで一番軽いもの。上が花のような形。下は8mmくらいで小さい
C 	6.08	2.20	89.27	円柱状でくぼみなし
D 	6.41	2.50	53.82	ふくぎつな柄がほってある。裏側はくぼんでいる
E 	5.73	2.00	37.96	ドーナツ型

C、D、Eは、直径が6cm前後で似た大きさだけど、重さには大きな違いがありました。これは模様がほってあったり裏側をくぼませてあったり、ドーナツ型

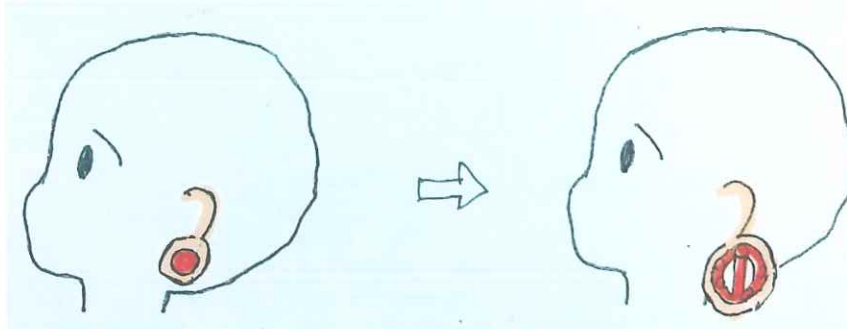
ナツ型にすることで、耳飾りを軽くしていたのだと思いました。

卵の重さがだいたい 60g くらいなので、その重さが耳にぶらさがっていると、とても重そうです。



#### ④ どうやってつけるのか？

私の予想は、耳飾りにひもを通し、耳にピアスのようにあなをあけて、ひもでぶら下げる方法でしたが、実際は、とがった石や動物の骨で、耳にあなをあけて、耳たぶに耳飾りをはめ込み小さなものから大きなものへと順番に大きくしていった、耳の穴の大きさも大きくしていったようです。



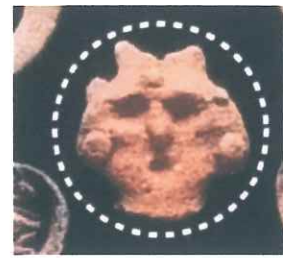
また、大きな耳飾りでも、裏側は表側よりも小さめで、耳にはめやすくしてあるものもあります。



← 赤堀歴史民俗資料館に展示してある釜ノ口遺跡のもの

どうしてこのように大きな土製の丸いものが耳飾りだと分かったのかという

1. 縄文時代の土偶に、同じような円盤型（えんぱんがた）の耳飾りがついている。
  2. 世界には、円盤型の耳飾りを、伸ばした耳にはめて使っている民族がいる。
  3. 遺跡から発掘された人骨の耳のところに耳飾りが見つかった。
- ということが考えられます。



↑耳飾りを付けた土偶

### ⑤作り方は？

#### ☆土製耳飾りの作り方

1. 山や河原から粘土を集める
2. 粘土を練り、作業をしやすくする
3. 粘土を耳飾りの形に整える
4. 粘土に下絵をほる
5. 下絵にそって粘土を削り出し仕上げる
6. 乾燥させた耳飾りを素焼きにする
7. 色をつけて出来上がり

#### ☆実際に粘土（焼かない粘土）でつくってみました



←1cm と 9cm の耳飾りをつくりました



9 cm の耳飾りだと顔の半分くらいありそうでびっくりしました。

## 5. まとめ

資料館で展示を見たり、先生にお話を聞いたり、本物の縄文時代の耳飾りをさわる体験をさせてもらいました。タブレットで写真もとらせてもらいました。とても貴重な体験でした。

大昔から飾りをする文化があったんだなと思いました。種類や大きさがたくさんあることがわかりましたが、どうしてこんなに大きくするのかなと思いました。つけ方も、私のはじめの予想とちがい、耳にあなをあけてどんどん広げることにおどろきました。私は、痛そうだし、重そうなので、つけたくはないなど、思いました。

今度は、耳飾り以外にも昔の飾り物があるのなら調べてみたいと思いました。

## 6. 参考資料

「おしゃれな縄文人」榛東村耳飾り館編集・発行 1993年  
「東国文化副読本」群馬県発行 2021年度版

## 7. お世話になった人

伊勢崎市赤堀歴史民俗資料館 川道さん  
榛東村耳飾り館 角田さん 牧島さん

貴重な展示品をさわらせてくださったり、ていねいに教えていただきました。ありがとうございました。